

エコアクション21 環境活動レポート

第37期
(平成27年7月～平成28年6月)

平成28年7月30日

株式会社 セルコ

目 次

	頁
環境方針	1
1. 組織の概要	3
2. 取組の対象範囲	4
3. 環境活動レポートの対象期間	4
4. 環境目標	5
5. 環境活動計画	6
6. 環境目標の実績・主な環境活動の概要	7
7. 環境活動計画の取組結果と評価	15
8. 次期の取組内容	16
8. 環境関連法規等の遵守状況	19
9. 代表者による見直し	20

環 境 方 針

株式会社セルコ（以下「セルコ」とする）は、環境・情報のコンサルティング業務を長年にわたり行ってきました。

セルコの事業活動自体が環境保全に資する技術コンサルティング業務で、日々の事業活動の実施と環境保全活動を一体的に行うことを第一に考えています。

セルコは、事業活動を通じて、従業員の高等な専門的応用能力と相互の組織的協力により、新しい価値の創造と社会的・科学技術的・経済的な成果の達成を図り、従業員の豊かな生活の実現、資本提供者の社会的満足度の高揚に貢献するとともに公益の確保と環境の保全を全社一体となって取り組みます。

< 行 動 指 針 >

セルコは、環境方針を実現するために、全従業員一人ひとりが環境に配慮して行動します。このためエコアクション21を取り入れ事業活動を推進します。

事業活動を行うに当たり、行動指針を以下に示します。

- ① 事業活動を通じて、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現に寄与します。
- ② 事業活動に関連する諸法令を遵守するとともに、高い職業倫理観をもって環境に配慮した事業活動を行います。
- ③ 行政機関の環境保全施策、企業・地域の環境改善活動に積極的に参画し、社会貢献活動に取り組みます。
- ④ 事務所に係わるエネルギー（電気）、水の使用量、ごみの排出量の削減、紙のリサイクル、グリーン購入に努めます。
- ⑤ 社員一人ひとりの自主的活動で推進します。

制定日 平成22年10月 1日

株式会社 セルコ
代表取締役 赤 澤 豊

セルコのエコアクション21の取組の目的と活用について

- ・現代社会では、地球環境問題をはじめ、少子化・高齢化、教育・文化、防災などさまざまな問題を抱え、企業も個人も社会貢献をすることが求められている時代であり、主体的、自律的に取り組んでいくことが求められている。
- ・地球の未来のために、持続可能な社会に向けて低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を構築することが必要であり、あらゆる主体が積極的に環境への取組を行うことが不可欠である。
- ・セルコは、エコアクション21に取り組むことにより、環境を主体としたコンサルティングを業務としており、会社はもとより各個人が自主的かつ積極的に環境への取り組むことを可能とする。
- ・環境活動などの社会的貢献活動を行うことが社会的認知を受けるために必須であり、エコアクション21認証・登録を行うものである。
- ・エコアクション21の取り組む仕組みによりPDCAサイクルを定着させ、業務をより効率的、効果的に行うものとする。

1. 組織の概要

1-1 事業所名及び代表者氏名

株式会社 セルコ

代表取締役社長 赤澤 豊

1-2 所在地

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷二丁目5番2号

URL <http://www.serco.co.jp/>

1-3 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者：環境事業部部长 中野 晃生

連絡先：TEL 03-3406-1724 FAX 03-3406-1595

1-4 事業活動の内容

「情報通信」、「映像・出版」、「環境・建設」分野を網羅する
コンサルティングサービスを提供しています。

1-5 事業規模

設 立：昭和55年4月1日

資 本 金：1,000万円

従業員数：23人（平成28年6月末現在）

床 面 積：218.22m²

売 上 高：264百万円（平成28年6月期）

2. 取組の対象範囲

2-1 取組の対象組織

取組の対象は全組織、全従業員とし、全社的に取り組めます。

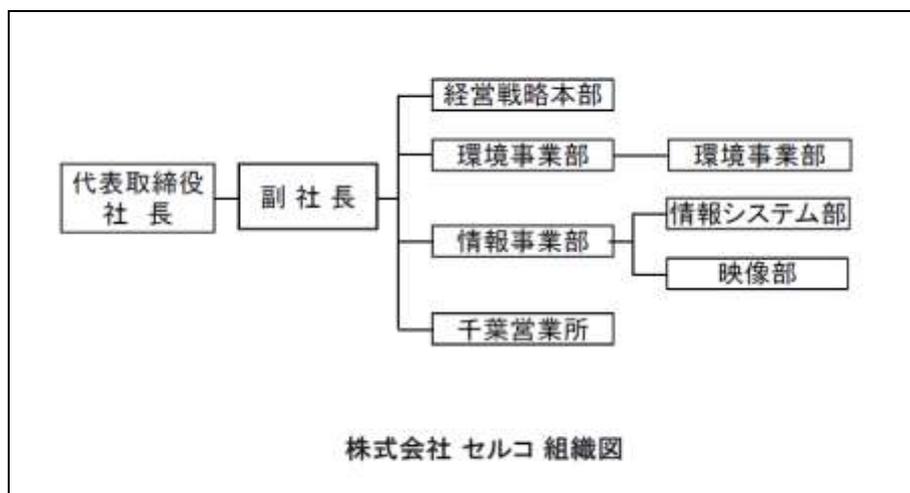


図2-1 取組の対象組織

2-2 対象組織の活動内容

各組織の活動内容は、以下に示すとおりです。

表2-1 各組織の活動内容

組 織		活 動 の 内 容
経営戦略本部		総務、経理、営業、業務の技術的な支援・指導
環境事業部	環境事業部	環境アセスメント調査、環境保全計画調査、生物・生態系に関する現況調査、市民参加型調査、自然環境保全計画・生物生態系保全計画の策定と施設の設計、河川・湖沼・海岸・港湾・埋立に関する環境整備計画等の策定と設計、公園整備計画の策定と施設の設計、地域振興計画・漁業振興計画・リゾート開発計画の策定
情報事業部	情報システム部	システム開発、データベース開発、データ入力作業、インターネット・サーバ運営、ホームページ企画制作、ホームページデザイン等
	映像部	広報ビデオの企画制作、ポスター・会社案内・リクルート・パンフレット等の企画制作、イベント・プロデュース、展示物の企画・制作等
千葉営業所		千葉県内の営業・情報収集

3. 環境活動レポートの対象期間

第37期における環境活動レポートの対象期間は、平成27年7月から平成28年6月までとします。

4. 環境目標

4-1 中長期目標

取組年度は、平成25年7月から平成28年6月までの3年間とし、以下を目標とします。

- (1) 社会の変化に対応できる体制の構築と事業活動の活性化を図り、環境保全活動を推進します。
- (2) 従業員の資質の向上と能力開発を行います。
- (3) 高度情報化された管理システムを構築し、作業の効率化を図り、事業活動の省エネルギー化に努めます。
- (4) 事業活動を通じ公益の確保と環境の保全に貢献します。
- (5) 事務所に係るエネルギー（電気）、水の使用量、ごみの排出量の削減、紙のリサイクル率の向上、グリーン購入に努めます。

4-2 第37期（平成27年7月～平成28年6月）目標

中長期目標に従って定めた第37期（平成27年7月～平成28年6月）目標を以下に示します。

- (1) ホームページによる事業活動の情報提供をより分かり易く内容の充実を図ります。
- (2) 従業員が地域の環境保全活動等に年1回以上参加するように取り組みます。
- (3) 従業員に技術士、シビルコンサルティングマネージャ、情報処理技術者等の資格取得を奨励します。
- (4) 従業員の資質向上等を図るため部内勉強会の実施や講演会等に参加するように従前にもまして計画的に取り組めます。
- (5) 生物多様性の保全等環境保全に寄与する活動を積極的に行います。
- (6) 事務所に係るエネルギー（電力）、水の使用量、ごみの排出量の削減、紙のリサイクル率の向上、グリーン購入に努めます。

5. 環境活動計画

事業活動と環境への取組、第37期の活動計画を以下に示します。

表5-1 事業活動と環境への取組

事業活動と環境配慮	環境への取組	
	環境に有益な取組	環境負荷を低減する取組
提供する製品・サービスにおける環境配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・事業活動を通じて、主に生物多様性の保全など自然共生社会の実現に寄与する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書の電子化に努める ・従業員の教育 ・地域活動、社会貢献活動の取組 ・環境保全、生物多様性保全等の啓発活動や情報のホームページ等による提供
事業活動における環境配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の情報を共有化し、作業の効率化を図る ・事務用品等のグリーン購入 ・再生紙の使用 	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー（電気）の使用量の削減 ・水の使用量の削減 ・廃棄物の排出量の削減 ・可燃ゴミ中のコピー用紙等紙類のリサイクル ・化学物質の適正管理

表5-2 第37期（平成27年7月～平成28年6月）の活動計画

第37期目標	環境目標達成のための具体的方策
(1) ホームページによる事業活動の情報提供をより分かり易く内容の充実を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの商品サイトの構築
(2) 従業員が地域の環境保全活動等に年1回以上参加するように取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の環境保全活動等に参加 ・調布市多摩川自然情報館で実施するイベントへの参加、基礎データの収集
(3) 従業員に技術士、シビルコンサルティングマネージャ、情報処理技術者等の資格取得を奨励します。	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員に技術士、シビルコンサルティングマネージャ、情報処理技術者等の資格取得を奨励
(4) 従業員の資質向上等を図るため部内勉強会の実施や講演会等に参加するよう従前にもまして計画的に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ・部内勉強会の実施や講演会等への参加
(5) 生物多様性の保全等環境保全に寄与する活動を積極的に行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・「一般社団法人 生物多様性保全協会」の活動支援
(6) 事務所に係るエネルギー（電力）、水の使用量、ごみの排出量の削減、紙のリサイクル率の向上、グリーン購入に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンの設定温度を夏28℃、冬20℃を標準とする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・分別の徹底を図り、新聞紙・書籍類・用紙等をリサイクルすることにより、可燃ゴミの減量を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・粗大ゴミの減量化 家電リサイクル法、資源有効利用促進法にしたがい適正に処理する。できるだけ長期使用する。 ・グリーン購入 事務用品等は、エコマークやグリーン購入法適合商品の表示してあるものを努めて購入する。

6. 環境目標の実績・主な環境活動の概要

(1) ホームページによる事業活動の情報提供をより分かり易く内容の充実を図ります。

1) HPの商品サイトの構築

既存のHPはサイトの構成が複雑で、閲覧者が必要な情報を探しにくいことから、HPに掲載する情報を見直し、再構築するよう検討を行っています。

(2) 従業員が地域の環境保全活動等に年1回以上参加するように取り組みます。

1) 地域の環境保全活動等に参加

地域の清掃活動や、自然観察会にボランティア参加しています。



自然観察会のボランティア活動状況

2) 調布市多摩川自然情報館で実施するイベントへの参加、基礎データの収集

調布市多摩川自然情報館で年10回行われるイベントに参加しています。また、多摩川で生物調査を実施し、基礎データを収集整理しています。今後、基礎データを活用した情報の発信、展示物の作成、イベント開催等を検討していきます。



イベント実施状況

みんなでつくる調布市内の植物観察記録 (1/2)			
調査日：平成28年6月11日 午前9時30分～正午		調査者：井木・玉本	
調査地点：多摩川		天候：曇り・くもり・あめ	
No.	種名	備考	在来・外来
1	エノキ	かくれのある場所にも早気で生える。	在来
2	ハラオオバコ	下から上に花が咲いていく。	外来
3	ネズミムギ	生えている量が一番多かった。	外来
4	アレチハナガサ	もともとは觀賞用。スターチスみたい。どんどん増えていく。水際のほうが多い。	外来
5	セイバンモロコシ	エビに行くところへ。	外来
6	ムラサキツメクサ	ヨーロッパの牧草。別名アカツメクサ。	外来
7	クスタマツメクサ	花が黄色いのが、コマツメクサより花が多い。	外来
8	カモシグサ	ムラサキっぽい。アオカモシグサより葉っぱの生える。	在来
9	アオカモシグサ	ノ草がひっくり返ってひよるひよるして感じ。土手に生える。花の咲き始めはカモシグサと見分けにくい。実になるとわかりやすい。	在来
10	千シギシ	富永農の栽培植物（インディケーター）。川原に多い。ちよっとくぼんだ所。排水物のそば。川がきれいになって家から隔って遠く。	在来

基礎データの一例

(3) 従業員に技術士、シビルコンサルティングマネージャ、情報処理技術者等の資格取得を奨励します。

1) 従業員に技術士、シビルコンサルティングマネージャ、情報処理技術者等の資格取得を奨励

会社規程により、正社員については受験料の補助がつきます。正社員以外の従業員についても、研修支援制度を利用した補助が可能です。

(4) 従業員の資質向上等を図るため部内勉強会の実施や講演会等に参加するように従前にもまして計画的に取り組めます。

1) 部内勉強会の実施や講演会等への参加

新入社員には社外での社員研修を実施し、研修後は社内勉強会を開催しています。

(5) 生物多様性の保全等環境保全に寄与する活動を積極的に行います。

1) 「一般社団法人 生物多様性保全協会」の活動支援

A. サイエンスアゴラ2015への参加

サイエンスアゴラ2015（主催：(独) 科学技術振興機構）（平成27年11月14日（土）～平成27年11月15日（日）開催）に「一般社団法人 生物多様性保全協会」が出展し、環境事業部が主体となって活動を支援しました。



許可を得て展示された特定外来生物
（オオクチバス・ブルーギル）



剥製・生体の展示とパネルによる解説

B. 第10回多摩川の外来植物駆除～守ろう多摩川のいきもの～の活動支援

一般社団法人 生物多様性保全協会が主催する、第10回多摩川の外来植物駆除～守ろう多摩川のいきもの～（平成28年10月4日（日）開催）の活動支援を行いました。



アレチウリ

(6) 事務所に係るエネルギー（電力）、水の使用量、ごみの排出量の削減、紙のリサイクル率の向上、グリーン購入に努めます。

1) エアコンの設定温度を夏28℃、冬20℃を標準とする。

A. スーパークールビズ

下記の概要に従いスーパークールビズを実施し、設定どおりの温度運用を行いました。

【実施期間】 H28年6月1日（水）～ 9月30日（金）

【主な実施内容】

◆ 原則取引先への服装は、クールビズ服装（ノーネクタイ、ノージャケット、半袖シャツ等）・スーパークールビズ服装（ポロシャツ、チノパン等々）でよいものとします。

※スーパークールビズとはいえ、不快感を与えない服装で対応してください。

※社内については、今まで通りで自由な服装で結構ですが、職務上、急な取引先の対応が必要な人は、上記の方針に従い社内に準備しておいてください。

◆ 社内の冷房設定温度は控えめ（28℃を目安）にしてください。
ただし、熱中症の予防としてこまめに室温を確認し、調整しながら実施してください。

◆ 社内の使用していない場所の消灯等の節電も引き続きできる範囲で実施してください。

2) 分別の徹底を図り、新聞紙・書籍類・用紙等をリサイクルすることにより、可燃ゴミの減量を図る。

可燃ゴミ中に不用コピー用紙の混入が目立つことから平成22年10月より計量を実施しました。分別した不用コピー用紙は自治会集荷場に出しました。

第37期では可燃ゴミの排出量が769.3kg/年、紙のリサイクル量が435.1kg/年、リサイクル率は約36.1%です。

前期（第36期）の可燃ゴミの排出量：704.9kg/年、紙のリサイクル量：479.2kg/年、リサイクル率約40.5%に比べ、可燃ゴミの排出量：64.4kg/年が増加し、紙のリサイクル量：44.1kg/年が減少したため、リサイクル率は約4.4%減少しています。

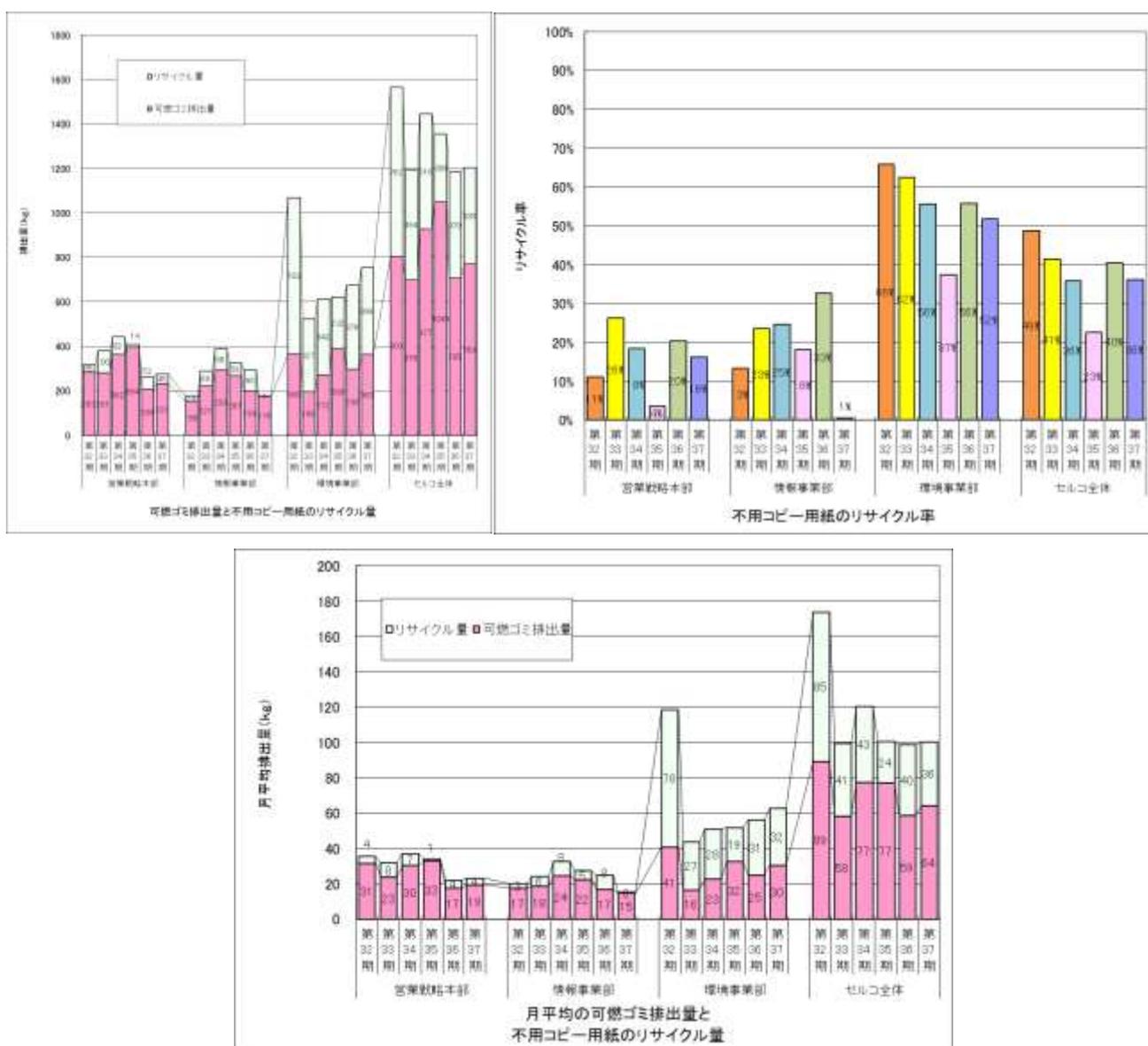


図6-1 可燃ゴミ中の不用コピー用紙のリサイクル

注 平成22年度の一般廃棄物（可燃ゴミ）排出量、紙のリサイクル量は、平成22年10月～平成23年6月の9ヶ月の実績

- 3) 粗大ゴミの減量化（家電リサイクル法、資源有効利用促進法に従い適正に処理する。できるだけ長期使用する。）
- 4) グリーン購入（事務用品等は、エコマークやグリーン購入法適合商品の表示してあるものを努めて購入する。）

コピー用紙の購入量は、第37期では1,139kg/年で、基準年(第31期)の1,028 kg/年より111kg/年(10.8%)増加し、前期(第36期)に比べ5kg/年(0.4%)減少しています。

また、再生紙の利用は、第37期では第31期の約7.4倍、第36期の約0.9倍で、購入量全体の約85%です。再生紙と普通紙の比率を見ると、第33期以降は普通紙から再生紙への転換が進み、普通紙の使用が減少しています。

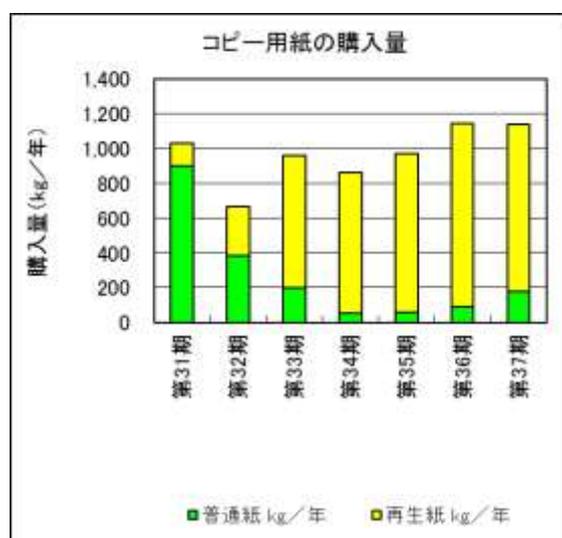


図6-2 コピー用紙購入量の推移

5) 参 考

事務所に係るエネルギー使用量（購入電力）、水使用量の削減、一般廃棄物（可燃ゴミ）の減量化とリサイクル（不用コピー用紙等）に努めています。

基準年となる第31期の実績及び環境活動の取組を実施した第32期～第37期の実績を表6-1に示します。

表6-1 基準年となる第31期の実績及び
環境活動の取組を実施した第32期～第37期の実績

項目	年度	第31期 (平成21年7月～平成22年6月)			第32期 (平成22年7月～平成23年6月)			第33期 (平成23年7月～平成24年6月)			第34期 (平成24年7月～平成25年6月)			第35期 (平成25年7月～平成26年6月)			第36期 (平成26年7月～平成27年6月)			第37期 (平成27年7月～平成28年6月)			
		基準年	実績	基準年比	実績	基準年比	前年度比																
二酸化炭素排出量	Kg-CO ₂ /年	28,260	27,336	97%	23,901	85%	87%	23,161	82%	97%	18,852	67%	81%	13,863	58%	74%	12,419	44%	90%	12,419	44%	90%	
電気使用量	kWh/年	67,607	65,376	97%	57,148	85%	87%	55,390	82%	97%	49,087	73%	89%	36,101	53%	74%	32,340	48%	90%	32,340	48%	90%	
都市ガス	Nm ³ /年	—	4	—	6	—	150%	4	—	67%	1	—	25%	1	—	100%	0	—	0	—	0%	0%	
水使用量	m ³ /年	441	376	85%	312	71%	83%	316	72%	101%	299	68%	95%	268	61%	90%	249	56%	93%	249	56%	93%	
コピー用紙の購入量	普通紙	kg/年	898	385	43%	200	22%	52%	51	6%	26%	60	7%	118%	90	10%	150%	40	4%	44%	40	4%	44%
	再生紙	kg/年	130	279	215%	762	586%	273%	809	622%	106%	911	701%	113%	850	654%	93%	409	315%	48%	409	315%	48%
合計	kg/年	1,028	664	65%	961	93%	145%	860	84%	89%	971	94%	113%	940	91%	97%	449	44%	48%	449	44%	48%	
一般廃棄物(可燃ゴミ)排出量	kg/年	—	803	—	699	—	87%	—	—	133%	1,049	—	113%	705	—	67%	199	—	28%	199	—	28%	
紙のリサイクル量	kg/年	—	762	—	485	—	64%	518	—	107%	306	—	59%	479	—	157%	159	—	33%	159	—	33%	

注：二酸化炭素排出係数は、東京電力 0.418kg-CO₂/kWh(平成21年12月28日 環境省)を用いた

平成22年度の一般廃棄物（可燃ゴミ）排出量、紙のリサイクル量は、平成22年10月～平成23年6月の9ヶ月の実績

A. 電気使用量及び二酸化炭素排出量

電気使用量は、第37期では3.2万kWh／年で、基準年(第31期)の6.8万kWh／年より3.6万kWh(約52.9%)削減されています。これは、平成26年にエアコンを新型の機種に更新したことに加え、照明をLEDに取り換えるなど節電に心がけた結果と考えられます。

二酸化炭素排出量は、第37期では約6.1 t-CO₂／年で、基準年(第31期)の約28 t-CO₂／年より21.9 t-CO₂／年(約78%)削減されました。

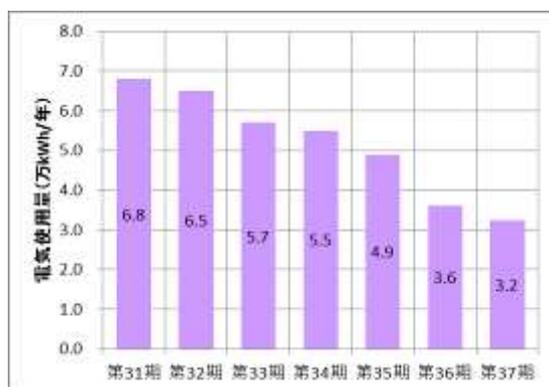


図6-3 年間電気使用量の推移

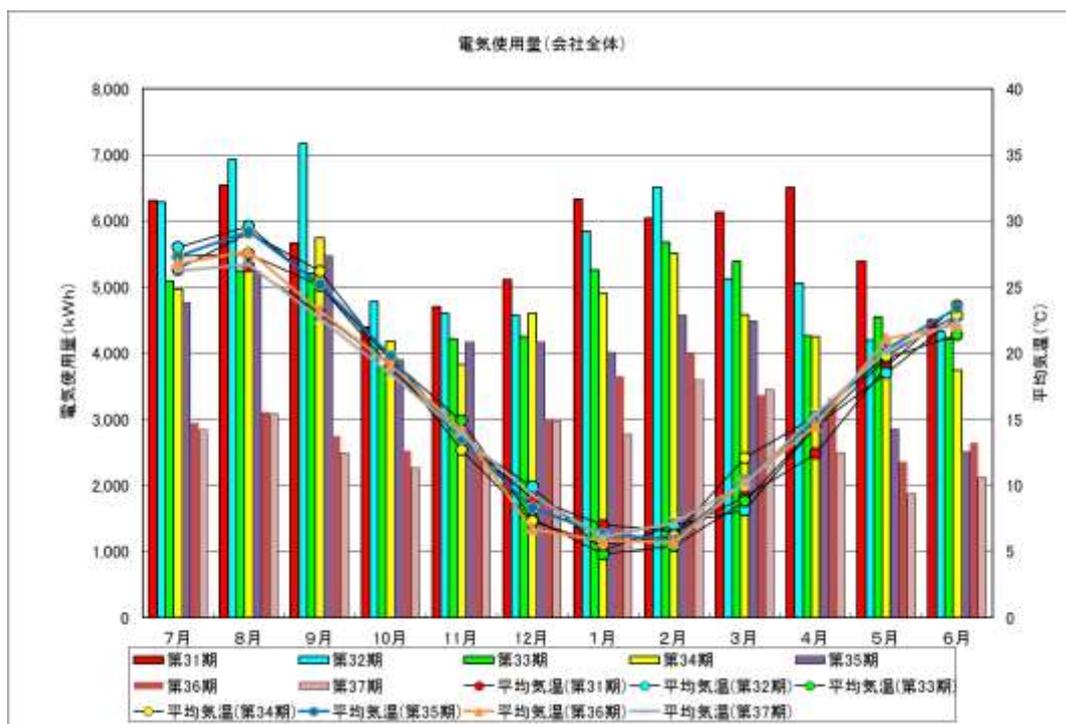


図6-4 月別電気使用量の推移

注：平均気温は気象庁東京管区气象台（大手町）の観測結果

B. 水使用量

水使用量は、第37期では249m³で、基準年(第31期)の441m³/年より約192m³(約43.5%)削減しています。社員数自体に大きな変動はなかったことから、社員各自の節水意識が反映された結果であると考えます。

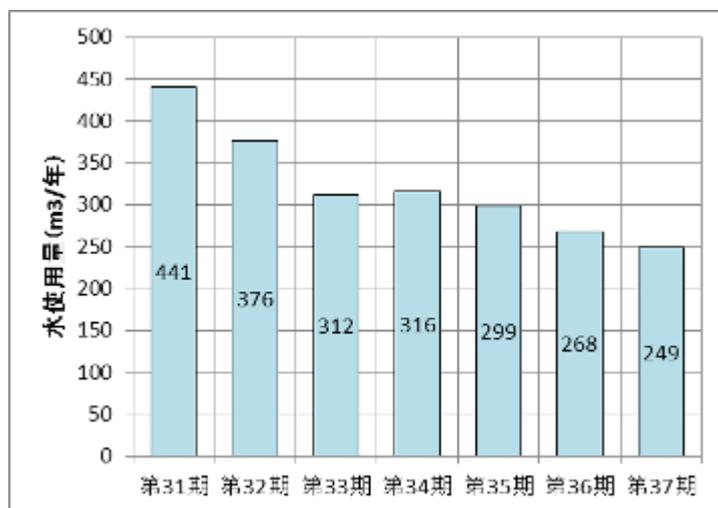


図6-5 年間水使用量の推移

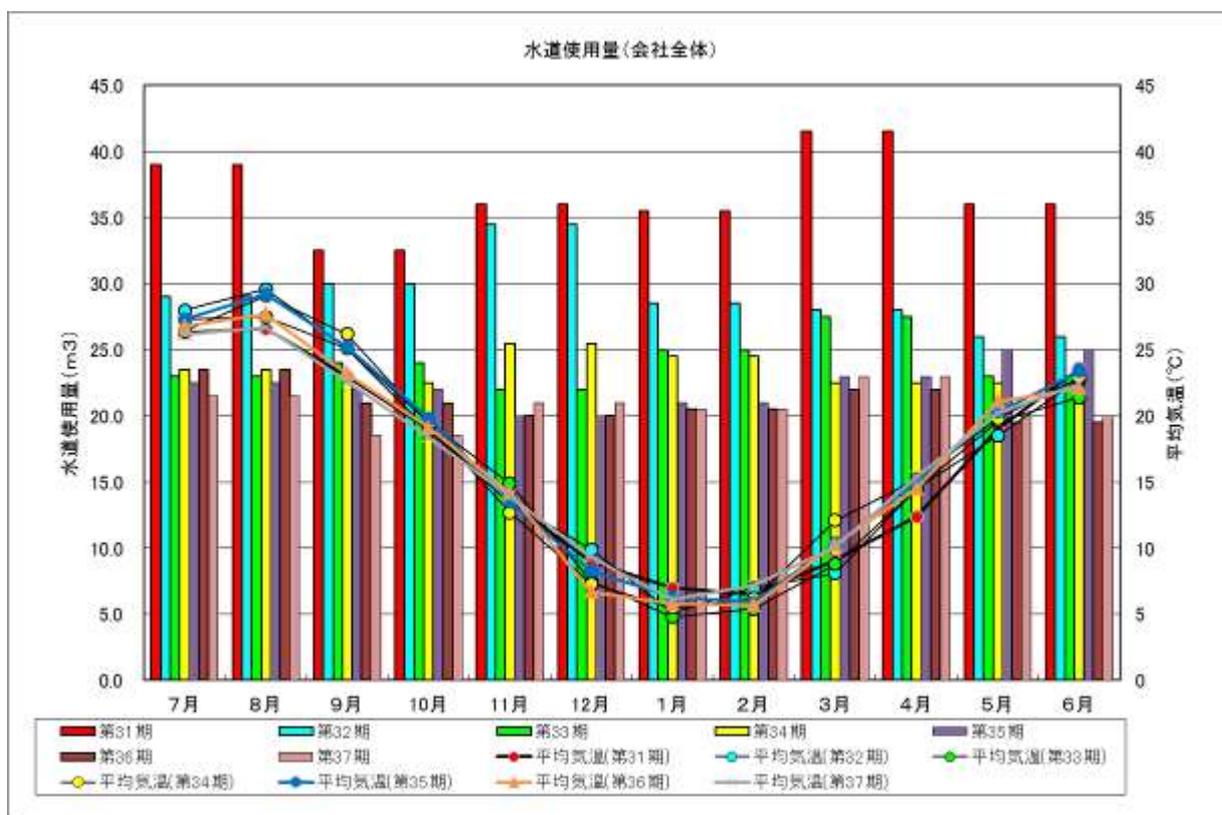


図6-6 月別水使用量の推移

注：平均気温は気象庁東京管区气象台（大手町）の観測結果

7. 環境活動計画の取組結果と評価

7-1 環境活動計画の取組結果と評価

第37期目標	環境目標達成のための具体的方策	第37期実績及び対策・来期への取組	評価
(1) ホームページによる事業活動の情報提供をより分かり易く内容の充実を図ります。	・HPの商品サイトの構築	サイトが一般の人にわかりづらいため、検索にかかりやすいよう調整する。また、絵本やキャラクターなど一般受けしやすい商品の開発を行う。	△
(2) 従業員が地域の環境保全活動等に年1回以上参加するように取り組みます。	・地域の環境保全活動等に参加	居住地の側溝清掃等の自治体活動に数人が参加。	○
	・調布市多摩川自然情報館で実施するイベントへの参加、基礎データの収集	従業員にイベント開催、内容の案内をメールで行い参加を促しているが、参加者は少ない。多摩川で生物調査を実施し、基礎データを収集整理している。	○
(3) 従業員に技術士、シビルコンサルティングマネージャ、情報処理技術者等の資格取得を奨励します。	・従業員に技術士、シビルコンサルティングマネージャ、情報処理技術者等の資格取得を奨励	9名が資格取得にチャレンジしたが、現時点で合格者は1名のみである。今後は、有資格者による受験者へのサポート体制を強化し、資格取得に向けた勉強会等の取組を行う。	△
(4) 従業員の資質向上を図るため社内勉強会の実施や講演会等に参加するように従前にもまして計画的に取り組みます。	・社内勉強会の実施や講演会等への参加	学会誌の精読、講演会等への参加をしているが、少数である。実施している者が一部に限定されているため、業務に併せた形で参加してもらうなど、参加を増やす取組を行う。	△
(5) 生物多様性の保全等環境保全に寄与する活動を積極的に行います。	・「一般社団法人 生物多様性保全協会」の活動支援	生物多様性保全協会の予定していたサイエンスアゴラ2015出展、多摩川外来植物駆除活動を支援し、一定の成果を得た。	○
(6) 事務所に係るエネルギー（電力）、水の使用量、ごみの排出量の削減、紙のリサイクル率の向上、グリーン購入に努めます。	・エアコンの設定温度を夏28℃、冬20℃を標準とする。	設定どおりの温度運用を実施している。	○
	・分別の徹底を図り、新聞紙・書籍類・用紙等をリサイクルすることにより、可燃ゴミの減量を図る。	新聞紙・書籍類・用紙等をリサイクル回収にまわし、減量化が図られている。	○
	・粗大ゴミの減量化 家電リサイクル法、資源有効利用促進法にしたがい適正に処理する。できるだけ長期使用する。	具体的方策に沿って実施している。	○
	・グリーン購入 事務用品等は、エコマークやグリーン購入法適合商品の表示してあるものを努めて購入する。	80%再生紙を購入している。	○

8. 次期の取組内容

8-1 中長期目標

取組年度は、平成28年7月から平成31年6月までの3年間とし、以下を目標とします。

- (1) 各事業部、専門分野、社内・社外等の境界を越えた組織を整備し、営業・生産・管理活動を展開します。
- (2) 従業員の資質の向上と能力開発を行います。
- (3) 高度情報通信技術による情報の共有と、有機的活用が図れる組織体を整備します。
- (4) 既成の概念を超えた新しい価値観を想像し、事業活動を展開します。
- (5) 事務所に係わるエネルギー（電気）、水の使用量、ごみの排出量の削減、紙のリサイクル率の向上、グリーン購入に努めます。

8-2 第38期（平成28年7月～平成29年6月）目標

第38期目標は、中長期目標にしたがい、以下のように設定します。

- (1) 事業活動の一環として、CSRのサポートや環境イベント開催など環境啓発に向けた取組を行います。併せて、ホームページによる事業活動の情報提供についてより分かり易い内容になるよう更新を図ります。
- (2) 資格取得の奨励や勉強会の実施などにより従業員の人材育成を図ります。
- (3) 特定外来生物の駆除など、社会貢献活動を年間1回以上の頻度で企画立案し、実施します。
- (4) 事務所に係わるエネルギー（電力）、水の使用量の削減に努めます。
- (5) ごみの排出量の削減、紙のリサイクル率の向上、グリーン購入に努めます。

8-3 第38期（平成28年7月～平成29年6月）環境活動計画

第38期環境活動計画は、中長期目標、第38期目標にしたがい、以下のように設定します。

- (1) 事業活動の一環として、CSRのサポートや環境イベント開催など環境啓発に向けた取組を行います。併せて、ホームページによる事業活動の情報提供についてより分かり易い内容になるよう更新を図ります。

No.	環境目標達成のための具体的方策	実行責任	対象	期 間
1	CSRのサポートや環境イベント開催などの環境啓発事業の推進	環境事業部	全員	実施：H28年7月～H29年6月
2	HPの商品サイトの更新、環境保全・啓発に寄与するキャラクターや絵本などの開発検討	情報システム部	全員	実施：H28年7月～H29年6月
3	撮影メディアのSSDリデュース、編集バックアップの外付けHDDによる簡易化、リデュース率と簡易化50%の実施	映像部	全員	実施：H28年7月～H29年6月

- (2) 資格取得の奨励や勉強会の実施などにより従業員の人材育成を図ります。

No.	環境目標達成のための具体的方策	実行責任	対象	期 間
3	地域の環境保全活動等に参加	各部長、各事業部の研修担当	全員	実施：H28年7月～H29年6月
4	調布市多摩川自然情報館で実施するイベントへの参加、基礎データの収集	環境事業部	全員	実施：H28年7月～H29年6月
5	技術士、シビルコンサルティングマネージャ（RCCM）、情報処理技術者等の資格取得を奨励（各事業部が年間計画を作成）	各部長、各事業部の研修担当	全員	実施：H28年7月～H29年6月
6	部内勉強会の実施や講演会等への参加（各事業部が年間計画を作成）	各部長、各事業部の研修担当	全員	実施：H28年7月～H29年6月

- (3) 特定外来生物の駆除など、社会貢献活動を年間1回以上の頻度で企画立案し、実施します。

No.	環境目標達成のための具体的方策	実行責任	対象	期 間
7	在来種植栽制度の普及に向けた検討や、外来種駆除イベント、サイエンスアゴラへの参加といった「一般社団法人 生物多様性保全協会」の活動支援	環境事業部 経営戦略本部	全員	実施：H28年7月～H29年6月

(4) 事務所に係るエネルギー（電力）、水の使用量の削減に努めます。

No.	環境目標達成のための具体的方策	実行責任	対象	期 間
8	夏のエアコンの設定温度28℃、冬の暖房温度20℃を標準とする。	各事業部の施設管理担当	全員	実施：H28年7月～H29年6月
9	節水に努める。	各事業部の施設管理担当	全員	実施：H28年7月～H29年6月

(5) ごみの排出量の削減、紙のリサイクル率の向上、グリーン購入に努めます。

No.	環境目標達成のための具体的方策	実行責任	対象	期 間
10	分別の徹底化し、新聞紙・書籍類・用紙等はリサイクルすることにより、可燃ゴミの減量を図る。	各事業部の施設管理担当	全員	実施：H28年7月～H29年6月
11	粗大ゴミの減量化（家電リサイクル法、資源有効利用促進法に従い適正に処理する。可能な限り長期使用を行う。）	各事業部の施設管理担当	全員	実施：H28年7月～H29年6月
12	グリーン購入（事務用品等は、エアダスターにノンフロンガス使用のものを選定するなど、エコマークやグリーン購入法適合商品の表示してあるものを努めて購入する。）	各事業部の事務用品担当	全員	実施：H28年7月～H29年6月

9. 環境関連法規等の遵守状況

環境関連法規等の遵守状況は、次表に示すとおりです。

環境関連法規等の遵守状況の評価の結果、適切に実行されていることを確認しました。
 なお、関係局より違反等の指摘はありませんでした。

また、自治会の再生資源(紙類)の収集に協力し、良好な関係にあります。

第37期 環境関連法規等一覧表兼遵守状況評価表

法規名	対象設備・品目・作業	管理項目	資格	担当部門	遵守状況の 確認・評価	確認者	確認日
廃棄物処理法 東京都廃棄物条例 渋谷区清掃及びリサイクルに関する条例	一般廃棄物 可燃ゴミ(紙類、生ごみ、プラスチック) 不燃ゴミ(缶、金風、陶器) 資源ゴミ(ペットボトル、缶、ビン)	可燃ゴミ、不燃ゴミ、資源ゴミに分別し、渋谷区のルールに沿って所定の曜日、場所に排出する。 可燃ゴミについては重量を測定後に排出する。	-	各事業部事務施設管理担当	◎	石川	H28年 7月17日
	再生資源 紙類(コピー用紙、新聞、雑誌、段ボール)	自治会集積場に適宜、排出(コピー用紙については重量測定後に排出) 機密書類は溶解処理とし、処理・処分業者と契約書の締結	-	各事業部事務施設管理担当	◎		
資源有効利用促進法 http://www.pc3r.jp/office/index.html	指定再生資源化製品 パソコン	パソコンメーカーの受付窓口へ申し込み 契約書の締結、一般社団法人パソコン3R推進協会会員であるパソコンメーカーによるリサイクルの場合、マニフェストの起票・管理が不要。(「資産売却報告書」(廃棄証明書)を受け取る。	-	各事業部OA機器担当 保管は経営管理部	◎	石川	H28年 7月17日
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S45/S45HO137.html	上記以外の産業廃棄物	上記以外の処理処分業者 契約書の締結、マニフェストの発行 マニフェストの保管(A、B、D、E各票を一緒にして整理保管) 保管期間は5年 発生した場合は、産業廃棄物処理票交付状況報告書を都に提出する	-	各事業部OA機器担当 保管は経営管理部	◎ 該当するものが発生していない	石川	H28年 7月17日
家電リサイクル法 http://www.rkcaeha.or.jp/index.html	冷蔵庫 エアコン テレビ	家電リサイクル券の保管、保管期限は3年	-	各事業部事務施設管理担当 保管は経営管理部	◎ 該当するものが発生していない	石川	H28年 7月17日
「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」(略称「フロン排出抑制法」)	エアコン	3ヵ月ごとに定期点検を行う	-	オーナー	-	石川	H28年 7月17日
消防法	消火器	防火管理者の任命、消防計画の作成、消防訓練の企画	-	オーナー	-	石川	H28年 7月17日
	火災報知機、煙探知機	設置場所の表示、定期点検	-	オーナー	-		
	ガス検知機		-		-		
				-		-	
館内規則	営繕設備 電灯、電話、電信の設置、撤去 電球、蛍光灯のメンテナンス 冷暖房機のメンテナンス	電灯、電話、電信の引込架設、給排水設備の設置、移動並びに看板商号の記入、その他、これに類似の設備の設置又は変更する場合は、その都度予め書面で承諾を受けた上、費用を負担して協議の上着手するものとする。 電球、蛍光灯の取替費用を負担すること。 冷暖房機のフィルターの清掃及び小修理を負担すること。	-	各事業部事務施設管理担当 対外窓口は経営管理部	◎	石川	H28年 7月17日
	安全衛生 館内 共用使用部分	館内に於いては、特に安全衛生に留意し震動、騒音、不潔悪臭その他、他人に迷惑を及ぼす物品は一切建物内に持ち込まないこと。 共用部分を問わず建物内で動物を飼養しないこと。 玄関、廊下、階段、非常口、バルコニー(ベランダ)その他の共用使用部分に物品を放置し(火災予防令54条)、又は他人に迷惑を及ぼす行為をしない。	-	各事業部事務施設管理担当 対外窓口は経営管理部	◎	石川	H28年 7月17日
	廃棄物	ゴミその他の不要品の処理は、管理会社の指示に従うこととし、所定の場所以外にこれを放置したり捨てたりしないこと。また、ゴミは燃えるゴミ・燃えないゴミを必ず分別すること。 日常又は臨時の仕舞その他粗大ゴミ及び入退引越時の梱包材料、不用粗大ゴミ、屑類等は必ず処理すること。	-				
	防火防犯	常に火災の予防に注意し、建物内で禁火又は吸殻、その他、発火のおそれのある塵芥等は必ず指定する場所に捨てること。 発火場のおそれある危険物は一切建物内に持ち込まないこと。 石油ストーブ、火鉢等を使用しないこと。 所定の場所以外で火気の取扱いはしないこと。 管理会社の承諾なく、電気の使用目的の変更、蛍光管を変更しないこと。 館内に於いて出火発見の際は、直ちに通報した後、管理会社に通知すること。 防火扉、消火器、非常階段等の非常設備は平常よりこれを閉鎖しておくこと。 防火防犯責任者1名、届け出ること。尚、非常時に於ける連絡先を管理会社に届け出ること。 監督官庁よりの防災に対する指示事項並びに請願出書類については協力すること。 館内設備の故障又は差支等を見つけた場合は直ちに管理会社に連絡すること。	-	各事業部事務施設管理担当 対外窓口は経営管理部 防火防犯責任者：赤澤豊	◎	石川	H28年 7月17日

9. 代表者による見直し

社長の評価結果及び指示（平成28年7月15日）

エコアクション21環境活動は、セルコが職員に求める環境コンサルタントとして行動すべき内容と合致するものである。環境保全の達成が組織的連携と一人ひとりの意識に負うところが多いことから、各自が主体的、積極的に組織として取り組みを行うこと。

(1) 環境活動計画全般に関すること

今年度は、第2期中期目標の計画期間の3年度にあたり、エコアクション21環境活動の具体的な数値が蓄積され、活動を推進するにあたっての課題が明らかになってきた。

今後は、環境活動の効果を確実に上げるため、業務の受注や作業進捗に併せた環境目標と評価の可視化を図ることが重要である。目標の設定と評価について可能なものは、より積極的に数値管理をすること。

また、進捗状況について中間評価を行い、必要に応じて是正や改善を行うこと。

(2) 環境活動計画に対する評価及び指示

1) 生物多様性の保全など自然共生社会の実現への寄与

生物多様性保全協会によるサイエンスアゴラへの出展や多摩川における外来植物駆除活動の支援は、生物多様性の保全に関する具体的な社会貢献活動として評価できる。

しかし、今期における活動参加者が特定の人員に限られていたことから、今後は、事前の活動周知や、声掛けによる直接的な活動への勧誘などにより、参加人員の拡大を図ること。

2) 従業員の教育

資格取得や自己研鑽については、教育を行う意図の理解や動機づけが乏しい部分があると評価される。

資格取得に対しては、有資格者が受験者に対して適切なアドバイスを行い、合格率をあげるようサポートすると同時に、受験者自身も受験日程と業務との調整を図り、申請後、確実に受験するように努める必要がある。

なお、部署によっては適切な取得資格がないため、その場合は展示会や講習会への参加・出席により、知見の蓄積と技術の向上を図ること。

従業員の教育の効果は、資格取得者や講習会の参加者の人数のみではなく、キャリア形成が各自に課せられているという一人ひとりの意識の向上でも評価されるべきものである。具体的な活動内容とともに定期的な面談等を通じ、定性的な評価も行うこと。

また、期間毎に活動内容を明確にし、部長会で年2回報告するなど、計画的に行うこと。

3) 地域の環境活動等への参加と環境保全等の活動状況等の情報発信、普及啓発

地域の環境活動等に対する取組は、計画を踏まえて行なわれているが、活動計画の位置づけや効果の社会的意義が不明瞭である。

企業として取り組む範囲に定められたものはないが、環境活動としてセルコが何を推進すべきかを再検討し、具体的な行事として活動する。

4) 電気及び水道の有効利用と使用量の削減

電気及び水道の使用量の削減等は、目標を達成し、評価される。
より細かな活動にも気楽に参加できるよう、計画を進めること。

5) 廃棄物の減量化、リサイクル、適正処理の実施

業務量の増加に伴い廃棄物量が増加したが、傾向としては廃棄物の減量化が図られており、評価される。

節電、節水同様により細かな活動にも気楽に参加できるよう、計画を進めること。

(3) 環境関連法規等の遵守

環境関連法規等の遵守は当然のことであり、より高い倫理観をもって、今後も引き続き活動すること。

事故及び緊急時の対応の訓練は、防災訓練を加え、実施期間を予め定めて、社員全員が重要性を認識して実行すること。